

大岡山から世界を照らす 世界の最先端を行く 日本の光学技術の発展に貢献

エリオテック

昭和58年に公開されたアメリカのSF映画『E.T.』。主人公のエリオットと地球外生命体E.Tが心を通わせるこの映画に、心を踊らされた人は多いのではないだろうか。エリオテック(大田区南千束、03・5499・1231、<http://www.eliotec.co.jp/>)の生沼利亮社長もその映画に惹かれた一人であり、主人公のエリオットから同社の社名を連想した。大岡山駅からほど近くに事務所を構える同社は、平成4年の設立以来、光学機器や光学部品の開発・設計・製作およびコンサルティングを行っている。

同社が主に手がけているのは、自動車のエンジン作動点検に使用される紫外・可視対応で耐熱型の工業用内視鏡(測定・計測分野)や果物の糖度選果システムに使用されるマルチチャンネル分光器(セ

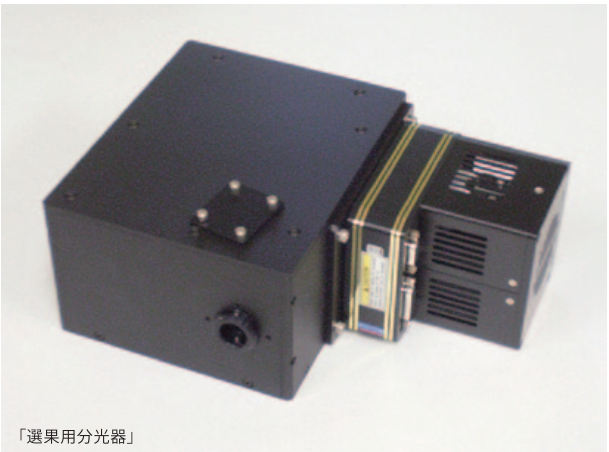
ンシング分野)、耳鼻科の手術用顕微鏡や眼科の検査装置等である。産業関連から医療分野まで、取扱う分野は多岐にわたっている。

生沼社長がもっとも大切にしているのは、お客様との対話である。対話の中でお客様が頭の中や机上で想像しているイメージを引き出し、可能な限り具現化していく。以前、お寺の住職から受けた「お堂の中に安置されている仏像を外の穴から見えるようにしたい」という依頼についても、レンズやプリズムを利用したプロジェクトを開発し、見事に応えてみせた。

生沼社長は「映画の中で、エリオットとE.Tが心通じたように、光学技術とそれを必要とする人々をつなぎ、あらゆる分野とも積極的に連携し日本の光学技術をさらに発展させたい」と力強く語ってくれた。



「UV耐熱内視鏡」



「選果用分光器」